

平成 22 年度補助事業プレゼンテーション資料

プレゼンテーション 1

特定非営利活動法人 エヌピーオー高等専修教育支援協会

理事長 堀居 英治

補助事業名

～スポーツ大会の開催補助事業～

プレゼンテーション 2

公益財団法人 日本交響楽振興財団

事務局長 仲山 章

補助事業名

～青少年の情操教育等補助事業～

プレゼンテーション 1

1. 事業者紹介

・事業者名

特定非営利活動法人エヌピーオー高等専修教育支援協会

・団体の目的

青少年（男女）に対し、正しい勤労観や職業観を育て、創造的体験学習を通して職業生活に必要な知識・技能の習得を図る支援と情報を提供する事業を行い、並びに、それらの実践的活動を普及するための研究・研修に関する事業を行い、青少年の健全な育成に寄与することを目的とし、下記の事業を実施している。

① イベント事業

スポーツイベントの開催、スポーツ吹矢の振興、優秀生徒表彰

② 職業教育事業

『総合的な学習の時間』サポート、『私のしごと』作文コンクール表彰

③ 進路相談事業

進路説明会、進路相談会

④ 研究・研修事業

夏季研修、進路指導研究協議全国大会、専修学校教育研究協議会

・歴史

昭和 51 年 専修学校制度の発足により全国に専修学校（高等課程・専門課程・一般課程）が設置される。

平成 14 年 1 月 全国の専修学校高等課程で学ぶ生徒達の健全育成を目的として、特定非営利活動法人エヌピーオー高等専修教育支援協会設立。

平成 14 年度よりイベント事業、職業教育事業、進路相談事業、研究・研修事業を毎年実施。

平成 18 年度から平成 19 年度、社会福祉事業を実施。

・組織、事業概要

役員数：役員 7 名（非常勤 7 名）

職員数：非常勤職員 1 名

会員数：正会員 29 団体

役員・職員報酬：なし

代表者：理事長 堀居 英治

所在地：東京都渋谷区代々木

平成22年度補助事業 自己評価書(プレゼンテーション資料)

番号	22-1-047
項番	

補助事業者名	(N)エヌピーオー高等専修教育支援協会		
補助事業名	平成22年度 スポーツ大会の開催 補助事業	事業項目名	

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的) 補助事業で解決・改善を目指す	状況	<u>専修学校高等課程は高等学校と同年代の生徒が職業教育を行う学校群</u> である。高校生には高体連等主催の全国大会が開催されており、専修学校高等課程では当協会共催で全国体育大会を開催しているが、 <u>高等学校に比べ公的助成が著しく低く、参加校と当協会資金だけの開催は難しい</u> 状況である。
	目指す姿	スポーツを通して得られる社会性、協調性、適正な競争心、集団生活による基本的な生活習慣の確立など <u>青少年の健全育成</u> と、大会参加に向けてスポーツへの鍛錬、技術の向上の場をより多くの生徒たちに経験させることは、 <u>スポーツ人口の増加</u> や、 <u>より良き社会人、職業人の育成</u> に有意義なものとする。



補助事業	目的 (中間目的)	全国の専修学校高等課程で学ぶ多くの生徒達がスポーツを通じて心身の鍛錬をはかり、多くの生徒との交流の場をつくることによって社会性・協調性を、そして他校の生徒と自ら進んで交流する積極性を育み、また、スポーツを通して適正な競争心や、集団生活による基本的な生活習慣の確立を図るなど、 <u>青少年の健全育成</u> を目的とする。
	受益者	全国の専修学校高等課程(高等専修学校)生徒(全国488校、37,689名)の全国的なスポーツ大会を開催。
	実施内容	第20回全国高等専修学校体育大会は、平成22年7月26日～29日に、山梨県富士吉田市、富士河口湖町で実施。全国の専修学校高等課程の選手(24校、753名)が男女自転車競技団体、男女自転車競技個人、軟式野球、男女バレーボール、男女バスケットボール、男女卓球個人、男女卓球団体、男女陸上、フットサル、男女バドミントン団体、男女バドミントン個人、男女スポーツ吹矢、男女駅伝競走の競技を行った。
	結果・成果	全国の専修学校高等課程生徒が全国高等専修学校体育大会を目標に練習を重ね、各競技の競技力の向上、強化が見込まれる。また、体育大会に参加することにより、社会性、協調性、適正な競争心や集団生活による基本的な生活習慣の確立など <u>青少年の健全育成</u> につながるものとする。

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	第20回全国高等専修学校体育大会は本年度新規参加校2校を迎え、合計24校の参加を得て実施することができた。本大会が他校生徒との交流の場となり、自転車競技をはじめとするスポーツの祭典の役割を果たした。また、各校でのスポーツへの鍛錬、技術の向上が見込まれるなど、 <u>青少年の健全育成</u> に寄与することができた。第21回大会も継続して実施する計画で準備を進めており、本大会の開催により、自転車競技部を創設している参加校も多く、自転車競技者層の底辺の拡大が期待できる。
今回の事業で、優れていると評価できる点	少子化等の影響により、専修学校高等課程在籍生徒数は減少し、大会参加者数も減少傾向にあったが、 <u>平成22年度大会においては参加者数の増加</u> が認められた。専修学校高等課程設置校は小規模校が多く、各校の規模によっては団体競技への参加が難しい場合もあるため、個人競技を取り入れ、 <u>少人数でも参加できる体育大会</u> とし、また、 <u>財団法人JKA補助金</u> による各校の負担軽減により <u>成果</u> をあげている。
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	競技日程を再考し、大会の運営は概ね適正であると考えているが、より多くの学校、生徒の参加が得られるようさらに検討していきたい。
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	<u>本大会の開催により、全国の専修学校高等課程で学ぶ生徒たちが大会を通じて多くを経験することができた。スポーツを通して得られる社会性、協調性、適正な競争心や集団生活による基本的な生活習慣の確立など、青少年の健全育成と大会参加に向けてスポーツへの鍛錬、技術の向上の場をより多くの生徒たちに経験させることは、スポーツ人口の増加やより良き社会人の育成に有意義である</u> と考える。当協会としては、 <u>高等学校との格差是正の活動を継続し、今後も本大会をはじめ、職業教育に意を注ぐ専修学校高等課程に対する支援を広げ、より良き社会人の育成、</u> いは日本 <u>の産業社会の発展に寄与していきたい。</u>

プレゼンテーション 2

1. 事業者紹介

① 事業者名

公益財団法人 日本交響楽振興財団

② 目的と事業の概要

事業目的は、オーケストラを身近なものにしてもらう、青少年の情操陶冶に役立ててもらふこと。その後交響楽のレベルアップを目指す作曲の公募や日本における交響楽史の編纂・発行、国際交流まで手がけたが、近年は交響楽発展のための底辺を広げる、青少年の健全成長に資することに重点を絞っている。現在の具体的事業は、

① 青少年の健やかな成長を育む活動（巡回公演・アマチュアオーケストラ演奏会の支援）② 小学校における通年音楽教育プログラム ③ 機関紙の発行、④ 作曲の募集・委嘱・披露、等を行っている（④は平成 22 年度から休止している）。

なお、23 年度は巡回公演の機会を利用した募金呼びかけ、被災者招待、避難先への少人数慰問演奏等の被災地支援も事業計画に盛り込んでいる。

①の巡回公演は、地方でなかなか聴けない大規模オーケストラを低料金で提供を可能にするものとして、現地主催者からのニーズが強く、公演に付随したプロ楽団員による青少年のための音楽クリニックも好評である。アマチュアオーケストラの演奏活動は各地方で人気があり、演奏会も盛況。これらは莫大な経費がかかり、かつ文化の成長は時間のかかるものであり、資金的に継続して援助して来られた J K A 等の存在意義は極めて大きい。

③ 発足と歴史

昭和 48 年 3 月設立。会長 原 良也氏（大和証券グループ最高顧問、第 5 代）。昭和 52 年 6 月より「特定公益増進法人」（文部科学省）認定、平成 22 年 12 月 1 日より「公益財団法人」（内閣府）へ移行。

④ 現在の運営・組織

賛助会員・6 団体 90 社。基本財産 5 千万円。理事 7 名（うち専務理事 中村経団連事務総長）、監事 2 名、評議員 7 名、顧問 8 名。評議員会、理事会の下に、企画委員会（委員長 海老沢 敏氏）あり。

事務局は、専務理事（非常勤）の下に、事務局長、総務・経理部長、事業部長、部員 3 人の常勤 6 人体制。

平成22年度補助事業 自己評価書(プレゼンテーション資料)

番号	22-1-100
項番	

補助事業者名	公益財団法人日本交響楽振興財団		
補助事業名	平成22年度青少年の情操教育等補助事業	事業項目名	①巡回公演 ②アマチュアオーケストラの演奏活動

1. 社会的課題と補助事業の関係整理

社会的課題 (最終目的) 補助事業で解決・改善を目指す	状況	大規模編成のプロ楽団の地方演奏は、地域としては入場料金も高く、公演は、2～3年に一度と非常に少ない。地域住民に人気の高いアマチュアオーケストラは現在、全国に141団体あるが、小中学生を招待している演奏会も多く、非常に盛況である。低料金または無料で提供・支援する巡回・アマチュアオーケストラ公演は、公益性の高い事業として評価が高く、全国からの開催要望もあり、できるだけ期待に応えたい。
	目指す姿	巡回公演、アマチュアオーケストラの演奏活動による優れた交響楽を全国に普及、浸透させ、 <u>青少年の心身の健やかな成長を目指すための音楽教育体制を確立し、将来、海外で活躍できる演奏家、指揮者、作曲家等を養成し、社会に貢献できる人材の育成に努める。</u>



補助事業	目的 (中間目的)	全国の巡回公演の回数増加の検討と地域の <u>小中学生を対象にしたプロの楽団員による音楽クリニック教室の充実と拡大</u> に努める。演奏家、指揮者、作曲家養成、育成のための支持基盤の強化。
	受益者	全国の青少年と教育関係者。若手、中堅の指揮者、演奏家には、演奏技術向上の機会の提供。
	実施内容	巡回公演は、全国16ヶ所で16回を開催。 <u>特別プログラムとして、指揮者、独奏者による演奏会を楽しむための演奏曲目・楽器解説をした。</u> 学生のための特別音楽授業として、 <u>プロの楽団員による音楽クリニック教室</u> を7ヶ所の巡回公演先で実施した。 <u>クリニックに参加した学生は、公演当日、会場でロビー演奏を実施した。</u> 更に交響楽への関心を深めるため、リハーサルに近隣の小中学校の生徒を招待した。22年度から入場者を対象にした音楽教材用小冊子を1万部作成、配布した。アマチュア・オーケストラの演奏活動は、全国5ヶ所で5公演を開催。地域住民で編成された市民参加型の楽団として、演奏会は地元の関心も高く、人気があり、誰もが気軽に楽しめるプログラムを提供した。
結果・成果	巡回公演は、入場者数は、16公演で12,480名、1公演の集客率は、70%程度で前年度(67%)を上回ったが、22年度の目標(75%)には、到達しなかった。アマチュア・オーケストラは、5公演で5,400名の入場者があり、地域に根ざした音楽活動として大盛況であった。傾向として児童、高齢者、障がい者の入場者が増加。	

2. 補助事業の実施状況、結果等を振り返り、補助事業全体を総合的に評価

事業全体の総括的感想	<u>青少年の情操教育、交響楽の普及という事業の目的が全国的に浸透するまでには、時間をかけた継続が必要である。</u> 地域の主催者、自治体、教育関係者及びマスコミ関係者に理解と認識を得るために積極的な宣伝活動に努めることも大切。地域の学生を対象にプロの楽団員による <u>音楽クリニック教室を充実させ、クリニックを受けた学生を対象に、地元ジュニアオーケストラに参加できる演奏技術習得のための強化に努める。</u>
今回の事業で、優れていると評価できる点	巡回公演は、地域での同規模の自主公演と比較して、 <u>公益性の高い補助事業として、割安な公演経費、効率的な運営方法が評価できる。</u> 公演は1地域を巡回で実施するため、宿泊費、交通費の面で節減できる。楽団とは、年間の公演を複数契約しているため、割安の楽団出演料で実施できる。公演に関連した <u>音楽クリニックは、プロの楽団員による演奏技術指導が評価され、音楽志望の学生を持つ地域の学校の音楽関係者からの関心が高い。</u> アマチュアオーケストラの演奏活動は、演奏技術を向上させること、地域での音楽活動の拡大の面で、助成金が効率的に運用されていることが評価できる。 <u>本事業の全国的な展開により、競輪公益資金の認識と理解が全国に拡大している。</u>
今回の事業の課題、改善すべきと思われる点	<u>巡回公演は、全国の音楽コンクールで入賞した、将来が期待される演奏家に演奏の場を提供する。多くの青少年が参加できるような音楽鑑賞の場を多くして、公演における青少年の入場者を周辺地域から拡大し、低料金で興味が持てる演奏会にする。</u>
事業実施で得ることができた教訓(知識・知見)、その他アピールしたい点	全国で実施するこの事業は、音楽クリニック教室を含めて、全国地域の学生の音楽教育の水準を比較でき、公演内容の改善を図ることで、全国の青少年への交響楽の普及に努めたい。 <u>平成23年度の巡回公演では、このたびの東日本大震災の被災者への支援として、避難先への慰問コンサート、被災者の招待、義援金のための募金活動を実施する。24年度の東北地区の巡回公演は、復旧・復興コンサートを実施したい。</u>